# 新しい時代　新文化運動と哲学

## 勝利した聖神と生命の時代

前回紹介した勝利した聖なる神の出現と勝利の正しい道に関する内容のように「勝利者」に成った曺熙星先生は一九八〇年十月十五日、遂に昔の曺熙星という人間的要素は死んでしまい、全く新しい一人の神人類が誕生したのである。これは完全に新しい身体と心に生まれ変わった現象である。今までの罪人曺熙星が被っていた身体は完全に脱ぎ捨て、新しい身体に生まれ変わったことになる。肉も骨も爪も全部が脱げて入れかわった。それは神さまが、"曺熙星"の"我"を殺したので肉体が代わり、死なない身体に変化した「換骨奪胎」したことを意味する。そして、いまや六千年間、曺熙星先生の身で王の権威をふるっていた死の神、魔鬼を打ち倒して「勝利の神様」が誕生したのである。ここで"勝ったのだ"ということは、罪の人間である"曺熙星"自身が自身に勝ったのではない。"我"は"我"に勝つことができない。神さまあなたが曺熙星という人生の"我"を殺して勝ったから、曺熙星が「勝利者」でなく、神さまが「勝利者」に成ったことを言っている。

人間が死ない。人間の身体が変化し、新しい"永生体"の身体になる換骨奪胎現状がいま数十年前から起っている。それを韓国では不老不死の新しい時代の到来と新文化運動であると云っている。いま、その勝利した聖神である「勝利者」が創教した ' 勝利祭壇 ' の会場での聖徒達の身体は徐々に変化している。死なない新しい身体に変わっているのだ。身体だけでなく心も変化している。身体が変わるためには心が変わらなければならず、心が変われば皮膚も血液も骨も、全て変わるのである。いわゆる仙道でいうところの「換骨奪胎」が、それであり、聖書でいう「聖霊に生まれ変わる」ともそれである。

' 勝利祭壇 ' の会員達は、この事実を身体と心で体験しているので勝利した聖神の証人である。そこでは勝利者が、死の権勢を余すところなく粉砕しているので、聖徒たちは日数がたつにつれて段々若返っている。そのような不思議な現状は不老不死の甘露の聖霊が ' 勝利祭壇 ' では常に降り注いでいるからである。

## 永遠なる生命への正しい道

換骨奪胎した勝利者の出現によって永遠なる生命の時代は開かれ、人類が歩むべき正しい道が20世紀後半から展開されている。その新たな新時代は全ての人類が共に行かなければならない生命の時代であり、正しい心のじだいである。

### 一、永生への正しい道

### 1、永遠なる故郷

元来、あらゆる宗教は人間が永遠に幸福を願望するところから生まれたものである。古今東西を通じて伝えられた多くの経典と預言書、そして、各宗教の窮極的な理想世界を一言で圧縮すれば、それは永生であり、永遠なる生命の故郷に帰ることであろう。

聖書では、このような理想郷を太初のエデンの園として表現している。そのエデンの園では死や老いや病苦がなく、無限な幸福だけを享有していたといわれる。

これは聖書を信じようと信じまいと、誰でもが望んでいる楽園であり、帰りたくなる故郷である。われわれ人間たちが、互いに争わずに和睦して暮らせる世界があったなら……そこが、エデンの園か、武陵桃源か、または極楽浄土であろうか……このようなことを、われわれの祖先たちは、その永遠な世界を夢見ながら、その美しい世界がこの地上に築かれることを、いかに指折りまっていたことか？

「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べている…」（ヨハネ福音書５章：３９節）この句の如く、聖書をはじめとする数多くの経典や預言書の主要骨子はみな永生の道である。

だが、永生とは霊の永生なのか、また、肉の永生なのか、それとも、霊と肉ともに永生なのか？

"この朽ちるもの（肉体）が朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書にある言葉が成就するのである。「死は勝利に呑みこまれた」"（コリント人への第一の手紙１５：５４～５５）

「私を信じる者はたとい死んでもいきる。また、生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」（ヨハネによる福音書１１：２５）

この聖句は、聖書でいう永生は単に霊的な永生だけを意味するのではなく、窮極的な目的が永生の地、エデンの園の回復であることがわかる。

西洋の宗教がエデンの園を理想郷に夢見ていたとすれば、東洋では道家思想が花咲いて窮極の理想郷に武陵桃源や、' 三神山 ' を夢見てきたのだ。この道家の思想も不老不死の永生に帰省していることは注目すべき点である。このような道家の影響力は東洋の政治と宗教、哲学の流れに無視することのできない大きな力として存在してきた。

だとすれば、三神山は何で、不老不死は何であるか？なぜ、不老草を求めるため韓半島を尋ねたか？茫茫の後漢書、東夷伝によれば次の如き記録がある。

「東方日夷　夷者柢也……天性柔順易以道御　至有君子不死之国焉……東夷、所謂中国失礼（根本）求之者也」（東方の人を夷としているが、これは根を意味しているが、かれらは天性が柔順で道に導き易い人たちだから、遂に君子が死なない国にならん……（東夷は中国が礼を失くしたとき、これを求めに来る国である））

また、孔子は前漢書でいわく「社会の現実が混乱したときは、海を渡り、渤海の国に行って暮らしたい」と言った。

史記にも「東夷、渤海に神仙たちが住んでいる神山があるが、そこには不老不死の仙薬がある」と言った。このような記録は山海経など、多くの記録で伝えている。

以上、多くの記録からみて、中国の道家思想の理想郷も、やはり不老不死の地上仙国であり、その地上仙国が韓半島の地でなされることを予言しているのである。

### 2、古書と預言書に記録された永生の道

それでは、韓国の預言書および古書にはどういう文句があるだろうか？

韓国の代表的な古書であり預言書である「鄭鑑録」、「格庵遺録」、「土亭秘訣」の主要主題は何であるか？それは端的に要約すれば永生の道である。

" 天牛耕田（天牛で田を耕し）、永生之穀（永生の穀を植えて）、牛鳴声中（牛の鳴く声ききながら）、甘露如雨（甘露の如き雨をうけて）、日就月長（二尾満ち足りて長生せん）、、、" （格庵遺録の中から）

" 太古始皇が夢見た不老草と不死薬が、弓乙の不求であり、東海三神、不老薬は甘露如雨である。" （弓乙図歌より）

" 以親勿近　以疏勿遠　永生之本　計生精左（親しいからとて近くせず、疎遠だからとて遠くせず、これが永生を得るもとである）" 「巫鶏秘記より」

" 駅谷勝地　人衆之地 " （「己亥上元白書より」）

駅谷は勝利の地であり、人々が多く集まる（从＝衆）地域である。

聖書で永生を約束した部分は数え切れないほど多いが、それをいちいち全部の例をあげることはできないので、代表的なものを幾つかあげてみる。

"あななたちの祖先は荒野でマナを食べたが死んでしまった。しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。"（ヨハネによる福音書６：４９）

「最後の敵として滅ぼされるのが、死である」（コリント人への第一の手紙１５：２５）

「勝利を得るものには、神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることを許そう」（ヨハネの黙示録２：７）

永生をなすところでは露が降りそそぐ

多く預言書に永生が出てくるが、その永生に続いて寒露が登場する。その甘露とはいかなるもので、永生にどういう役割をしているかを調べてみよう。

老子の「道徳経」３２章には、正しい道に関する預言が下記のように記されている。

"候王若能守　萬物将自賓　天地相合　以降甘露　民莫之令而勿"

（君主が若し、道を守ることができれば、天下萬物は自ら客になり訪ねてくるだろうし、天と地が相合し甘露を降らすように人民は命令しなくてもよく治まるものだ。）

旧約聖書、ホセア書（１４：５）

"私はイスラエルに対しては露のようになる。彼はゆりのように花咲き……"

神は永生を与える「勝利者」に露のごとく臨み、「汝、勝利者は百合花（救世主の象徴）のごとくならん。」と言っておられるから、露は即ち神さまが勝利者に与える証票のようなものである。

甘露は天下泰平の兆候として、聖なる天から降る甘い酒だと伝えられるが、仏家でも不老長寿する露として知られている。

次の号に引き続き掲載

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

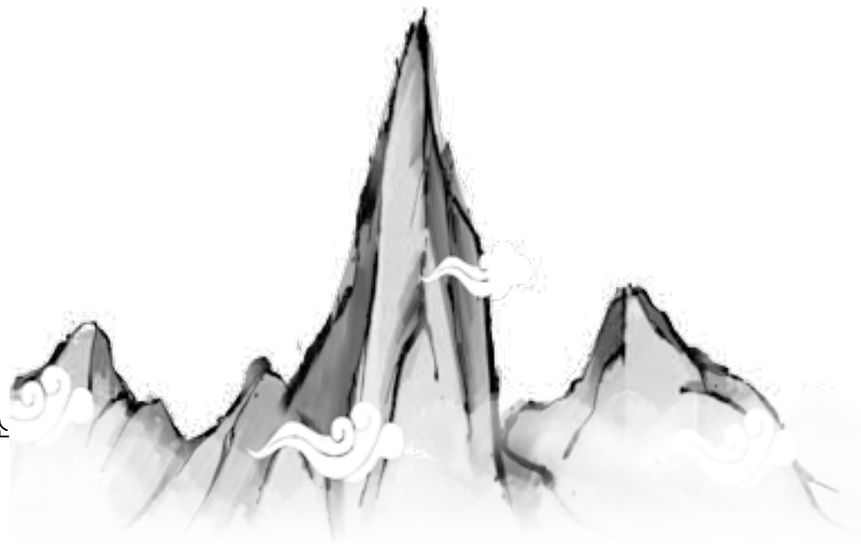
---

격암유록 新 해설
**제119회**

# 인간의 생사(生死)는 갑을에 있으며 생사(生死)를 결정짓는 것은 용사(龍巳=辰巳)임을 알아야 하느니라

## 甲乙歌 갑을가

甲乙當運回來時 갑을당운회래시
先入脫權墮落生 선입탈권타락생
有口無言人人啞 유구무언인인아
先動者反中入運 선동자반중입운
時至不知無知者 시지부지무지자
後悔莫及可憐生 후회막급가련생
節不知而先入者 절부지이선입자
世界萬民殺害者 세계만민살해자
殺害人生先入者 살해인생선입자
所望斷望何望入 소망단망하망입
物慾交蔽目死者 물욕교폐목사자
非先入者可憐誰 비선입자가련수



庚子閣蔽甲乙立 경자각폐갑을립
亞裡嶺有停車場 아리령유정거장
苦待苦待多情任 고대고대다정임
亞亞裡嶺何何嶺 아아리령하하령
極難極難去難嶺 극난극난거난령
亞裡亞裡亞裡嶺 아리아리아리령
亞裡嶺閣停車場 아리령각정거장
鷄龍山上甲乙閣 계룡산상갑을각
俗離山上鷄龍閣 속리산상계룡각
乙矢口耶所望所望 을시구야소망소망
人間生死甲乙耶 인간생사갑을야
生死結定龍蛇知 생사결정룡사지

갑을의 운을 당하여 때가 돌아오면 먼저 들어와 권세를 행사하며 타락하여 떠난 인생들은 입이 있어도 말을 하지 못하는 벙어리와 같이 되느니라. 먼저 들어왔으나 정도령을 배반하여 떨어져 나간 자는 중입운이 이르러도 그때를 모르는 무지자(無知者)이니 아무리 후회해도 어찌할 수 없는 가련한 인생들이로다. 때를 모르는 철부지와 같은 선입자는 세계 만민을 살해하는 자이며 인생들을 살해(殺害)하는 선입자는 소망이 끊어지니 무엇을 바라고 어디로 들어가겠는가? 결국 망(亡)과 사(死)로 간다는 뜻이다. 물욕에 눈이 먼 자는 죽으리라. 먼저 들어오지 않은 자들을 누가 가련하다고 하였던가?

경자에는 각(閣)을 폐하지만 갑을에는 세우느니라.(경자년에 이승만 대통령이 하야하고 하와이로 망명한 바 있다. 갑을에는 각(閣)을 세우게 된다는 뜻) 아리랑 고개에 있는 정거장에서 다정한 임을 간절히 기다린다네. 아리랑 고개는 무슨 고개인가? 극히 어렵고 어려운 고개요 넘어가기가 지극히 어려운 고개로다. 아리, 아리, 아리랑, 아리랑각이 있는 정거장에서 계룡산(정도령)의 꼭대기를 보니 갑을각(甲乙閣)이 있는데 이곳이 바로 속리산(세속을 떠난) 위의 계룡각(鷄龍閣)이니라. 을(乙)을 알아야(을시구乙矢口) 그토록 바라던 소망을 이루리라.

인간의 생사(生死)는 갑을에 있으며 생사(生死)를 결정짓는 것은 용사(龍巳=辰巳)임을 알아야 하느니라. 갑은 양목, 을은 음목으로 갑을은 양목장군이니 곧 청림도사이다. 용사는 진사성인을 말하며 결국 갑을의 청림도사가 진사성인이 된다. 또한 갑을과 용사(진사)를 합해보면 갑진 을사가 나오게 된다.

甲乙當運出世人 갑을당운출세인
叙者亡而屈者生 서자망이굴자생
自己嬌慢滅身斧 자기교만멸신부
危險千萬十字立 위험천만십자립
人人叙叙自身亡 인인서서자신망
去嬌慢心揚立身 거교만심양립신
屈之屈之人人屈 굴지굴지인인굴
名振四海十字立 명진사해십자립
甲乙當運不失時 갑을당운불실시
愼之愼之又愼之 신지신지우신지
再建再建又再建 재건재건우재건
四海八方人人活 사해팔방인인활
十字立而重大事 십자립이중대사
衆人寶金相議成 중인보금상의성
暗暗謀事再建人 암암모사재건인
十八卜術立耶偵 십팔복술립야전

갑을의 운을 당하여 출세하는 사람이 있나니 자신을 굽힐 줄 모르고 내세우는 자는 망하고 굽히는 자는 살 수 있느니라. 스스로 잘났다고 교만함은 육신을 멸(滅)하는 도끼가 됨이라. 그런 사람이 하나님을 찬양한다고 하면 위험천만한 일이요. 사람마다 자기가 잘났다고 나서면 자신을 망치며 교만한 마음을 버리고 정도령의 천지공사에 힘쓰면 입신양명(立身揚名)하리라. 굽혀라, 굽혀라, 사람마다 굽히면(한없이 겸손해야 한다.) 정도령의 이름이 사해(四海)에 진동(振動)하고 십승 진리가 천하만국에 전해지느니라. 갑을의 운을 당하면 만에 하나라도 때를 놓치지 않도록 해야 하느니 몸가짐과 언행을 삼가고 삼가고 또 삼가야 하리라.

마귀로 인하여 하늘나라가 무너졌으니 그 마귀를 죽여 무너진 하늘나라를 재건, 재건 또 재건하여 사해팔방의 사람들을 살려야 하리라. 십승의 진리를 세움이 무엇보다 중대한 일이니라. 세상의 사람들은 돈에 혈안이 되어 서로 모여 의논들을 하지만 남모르게 암암리에 십승의 진리를 다시 세우고자 일을 도모하는 사람이 있으니 진인인 박(朴=十八卜=72궁 정도령)이 시작하여 81궁 정도령이 완성한 십승의 진리를 세우는 천지사업을 하게 되느니라.*

박명하 /고서연구가
myunghpark23@naver.com
010-3912-5953

**당신**을 **영생**의 **세계**로 **안내**하는 **신문**

성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우

**승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다**
**전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다**

**승리신문** 1990.3.3 등록번호 다 - 0029

발행인 겸 편집인 김종만

본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람몸이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.

경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37
우 14679
**홈페이지 www.victor.or.kr**

**광고 및 구독신청**
전화 032) 343-9985
FAX 032) 349-0202

본지는 신문윤리강령 및 그 실천요강을 준수합니다.